

## 京丹後市大宮町

ヒアリング対象：扇田若菜さん親子 3人

丹後にもこんなに素敵な人がいっぱい!



植田友香理さん

与謝郡与謝野町在住  
フリースペース「スタジオ き」主催



奥大野には、移住されて10年を過ぎたステキなご家族がいらっしゃいます。地域に溶け込み、信頼のおける“奥大野の顔”的存在となった自然栽培の野菜農家さんです。また、奥大野住民の中には、移住者を受け入れ奥大野を守っていかうとする理解のある方もあり、成り立っているようにお見受けしました。そして、定住されているご家族の実績もあり、住民たちの中には、若い移住者を受け入れる体制が整っているように感じました。今のところ空き家はないようですが、利便性もよく、こじんまりとした集落で、祭りや行事もほどよく子供たちや住民で賑っているようです。

奥大野は、国有農地が集落の近くにあり、その農地で自然農法による野菜作りをされているご家族が数件いらっしゃるようです。農的な暮らしを自ら選び実践しようとする方には魅力的な場所ではないでしょうか？

2010年に奥大野に移住され農作業をする傍ら、自宅で英語塾、週3日『ちいさな食卓』という小さなカフェスペースを借り、自分で作った野菜や地域のこだわりのお野菜を使って食事を提供されている若菜さん親子のお宅に訪問させていただきました。

「将来、子供たちにも土に触れる生活をして欲しいなあ〜。」

「だから、畑仕事が楽しいものだって思ってもらえるようにしてるかな〜。」

と、楽しそうに小豆の皮を剥きながらお話しして下さいました。

あまりに楽しそうなので、私も皮むきをしながらお話をうかがいました。



「田舎での暮らしが普通になってるので、都会での子育てってどうなのかな？想像つかんわ〜。」と、田舎での子育てについて聞いてみるとこんな答えが返ってきました。

若菜さんは、愛知県生まれ、田園風景の広がる田舎で育ち、その後、お父様の転勤で家族で各地を転々とされたそうです。

20代の頃、都会（東京・イギリス）で暮していた時、安い航空券が手に入り、東南アジアを旅されたことがあったそうです。旅先で見る人々は、土に触れる暮らしをしている田舎ほど、人が人間らしく、キラキラと生きてると確信する事が出来たそうです。

日本に帰ってから、縁あって、京都府綾部で大豆から自分で育てて味噌を仕込んでいる女性がいることを知り訪ねてその場で移住を決意し、田舎暮らしが始ったそうです。

その後、ご縁があり結婚し兵庫県村岡で5年半くらし、その間に2人のかわいいお子様にめぐまれ、縁あって現在の奥大野で暮らされています。

小学校と保育所に通う娘さんたち二人と、大好きな野良仕事をしながら、週3日カフェ、夜は英語塾。このカフェは野良仕事をしてとれたお野菜をオスワケするような気持ちで、提供されています。そのカフェの名は、～若菜さんの『ふだんの食卓』～です。

お昼ご飯をご近所さんが食べに来て下さるイメージで始められましたが、口コミで遠方からも来られる方がある知る人ぞ知る奥大野の食卓になっています。





さて、若菜さんのお宅は、子どもたちを自由に遊ばせてあげられる国道から少し奥にあり、安全です。

そして、野山が近くにある、お子さんと山に散歩に行くときは、野草に木の実に、ポケットいっぱいのご褒美がたくさん手に入るそうです。1年を通していろんな野良仕事を楽しめ今のペースが丁度いいかな〜。「充実してます。」と、話してくださいました。

車で10分ほど行けばスーパーやホームセンターなどいろんなお店が近くあり、利便性もよい、ほど良い田舎の集落（奥大野）でした。

帰ろうとする私を見送ってくださった時、紅葉した草木の間で自然と同化している若菜さん親子の風景にうっとり見とれてしまいました。

